

設計事務所探訪

Vol.16

安全で安心な設計をベースに
人脈、向上心、提案力で攻めるInterview
伊藤建築設計事務所

伊藤政一（いとうまさかず）代表取締役社長＝左。1923年山形県生まれ。42年に山形県立鶴岡工業高等学校建築科卒業後、53年に伊藤建築設計事務所を設立し、現在に至る。碓谷規幸（いかりのりゆき）チーフプロデューサー＝右。68年山形県生まれ。90年に新潟大学工学部建築学科卒業後、石本建築事務所に入社。2002年に伊藤建築設計事務所に入社し、現在に至る。事務所の主な実績は、特別養護老人ホームなの花荘（95年）、特別養護老人ホームさくらホーム（96年）、酒田港展望台（99年）、遊佐町立藤岡小学校（99年）、特別養護老人ホームゆうすい増床（2006年）、酒田市内立郷小学校（06年）ほか。

伊藤建築設計事務所 山形県酒田市東大町1-48-27 TEL.0234-24-1567
URL : <http://www14.plala.or.jp/ito-architect/>

(人物写真/石原敏彦)

伊藤建築設計事務所が山形県の酒田市に事務所を構えて半世紀あまり。伊藤政一社長の設計思想のベースには、安全で安心な設計へのこだわりがある。所員は、事務所設立当初からのこの姿勢を引き継ぎながら、事業主や協力会社との信頼関係を築いてきた。各分野の専門家と対等な形でのパートナーシップを組み、そこで培ってきた人脈を生かし、向上心を秘めた提案力で、数多くのコンペに挑み続けている。

設計は身体・生命・財産を保証する

— 伊藤建築設計事務所の設立は1953年と、山形県酒田市の設計事務所の中では最も古いとのこと。設立当初の状況を教えてください。

伊藤 当時は、住宅は大工が建てるものと誰もが思っていた時代です。そうした中で、「設計事務所に頼めば、安全で安心な建物ができます」と訴え続けました。設計という行為は、人の身体・生命・財産を保証するものだとわかってもらうのに、5、6年はかかったと思います。

「安全・安心」を重視する設計理念は、当時もいまも同じです。常に設計と監理は表裏一体だと考えて、プロジェクトに臨んでいます。材木一つにしても、節がいくつあるかまで含め

てしっかり検査してもらう。山形県の庄内地方では、「うるさい設計事務所」として通っています。そうすることで建築に携わる関係者全員の気持ちを引き締め、建物のグレードが上がらると思うのです。

— どのような用途の建物を設計されることが多いのでしょうか。

伊藤 学校や特別養護老人ホームの設計が多く、仕事の95%は公共建築です。ただしここ10年ほどは公共の新築件数が激減しており、まるで冷凍庫にでも入ったような感じです。それでも、以前、設計した建物の増築を頼まれたり、コンペやプロポーザルに挑戦することで、なんとかしのいでいます。酒田市内の設計事務所は全部で40、50件あります。事務所のカラーを打ち出さなければ生き

残ってはいけません。

— 2006年12月に完成した「遊佐町立高瀬小学校」は5社指名コンペで選ばれています。施設の特徴を教えてください。

碓谷 遊佐町は鳥海山の伏流水が豊富な土地です。敷地の高瀬地区周辺は「水の里」と称されており、町は



「遊佐町地域防災センター」の完成予想パース。5社指名プロポーザルにより、2007年3月に伊藤建築設計事務所が選ばれた。08年度に着工の予定



(上) 中庭の東と西に、木造の普通教室棟と特別教室棟を配置。木造校舎を、RC造のメディアルーム（正面）とランチルームがつなぐコの字型のプランとした。奥は体育館の屋根と鳥海山。近くを流れる農業用水を中庭に引き込み、小さな滝や水路や池を整備して、水を循環させる仕掛けとした。(右) RC造一部木造の体育館。中庭と体育館は06年12月に完成した

「水を使った提案をしてほしい」と要望していました。これに応じて、中庭に水景施設を整備したのです。

地域の人のために学校は自慢できる町の財産です。役場や学校の担当者、PTA、地域住民の熱心な協力のおかげで、敷地の外を流れる農業用水を中庭に引き込むというアイデアを、実現することができました。引き込んだ水は中庭の小さな滝から水盤に落とし、池から敷地脇の農業用水を使用しているせせらぎへと循環させています。これから夏を迎え、中庭が子どもたちの楽しい遊び場になってほしいと願っています。

校舎は、中庭を囲んで口の字を描き、東と西に木造の教室棟と特別教室棟



「特別養護老人ホーム ゆうすい」(RC造一部木造、平屋、工期：05年10月～06年6月)。5社指名コンペで選ばれ、ユニットケアシステムを導入した35床の増築棟を新築

を配置し、南と北にRC造のメディアルームとランチルームを配置しました。RC造部分のファサードは、木との対比を意識してガラスを使い、カーテンウォール風にサッシで構成しています。フィンが付いたデザインのサッシで、見付けが細くシャープに見せています。FIX窓と開閉窓のデザインが同じなので、リズムを連続させることができました。

「できない」とは言いたくない

— 遊佐町では、ほかにもコンペで特別養護老人ホームや地域防災センターの設計を獲得されています。コンペに勝ち、いい建築を実現するためには何が必要だとお考えですか。

碓谷 もちろん安全・安心がベースにあります。その上で、人脈、向上心、提案力が必要だと思っています。現代は情報が多種多様で細分化し、設計作業は分担化されています。事業主、設計者、施工者、職人すべてがチームスタッフという意識のもと、設計者には舵取り役が求められていると思うのです。それを踏まえた上で、知恵を得るためのいい人脈づくりを大切にしていきたいと思っています。

「遊佐町立高瀬小学校」

所在地/山形県飽海郡遊佐町山字塚中瀬25-4、発注者/遊佐町、設計・監理者/伊藤建築設計事務所、施工者/校舎建築＝菅原工務所・庄司建設工業JV、体育館＝大井・高橋JV、屋外教育環境＝高橋工業所、施工期間/校舎＝2004年9月～05年12月、体育館＝2006年4月～12月、屋外教育環境＝2006年9月～12月、敷地面積/1万7546.24㎡、建築面積/校舎＝2057.13㎡、体育館＝1288.60㎡、延べ面積/校舎＝2826.80㎡、体育館＝1241.54㎡、構造・階数/校舎＝木造一部RC造・地上2階、体育館＝RC造一部木造・地上2階、仕上げ/校舎)屋根＝瓦葺き、外壁＝木板張り、コンクリート化粧打ち放し、外まわり建具＝木製サッシ、アルミサッシ(SYSTEMA 710・オーダー)、(体育館)屋根＝瓦葺き、外壁＝磁器質タイル張り、コンクリート化粧打ち放し、外まわり建具＝アルミサッシ(SYSTEMA 710)

(建築写真/メディア・エンタープライズ・エイジェンシー)



自分から何かを動かそうという気持ちを持つことも必要です。新しい製品が出たらその利点を検討します。建築以外のことにも広く興味を持ち、感性を磨くよう努力しています。「できない」という言葉は使いたくありません。向上心を常に持ち、可能性があれば検討して、解決法を見つけ出したいのです。そして事業主の立場に立ち、構造や設備まで考慮した総合的な提案力を発揮していきたい。それを支えてくれるのが、人脈と向上心だと思います。

伊藤 向上心と質の追求も忘れずに、歴史のある設計事務所として培ってきた、建築への美と機能と安全の追求を大切にしたいと思っています。絶えず相手の立場と目的を的確に把握し、温かい思いやりと奉仕に対する信念を持って、「何でもできる」という自信と向上心のもと、事務所の歴史を永続させたいと考えています。

【お問い合わせ】

YKK AP株式会社

本社/東京都千代田区神田和泉町1番地
TEL.03-3864-2243
YKK AP一般ビル建材商品検索
<http://www.ykkap.co.jp/search-bl/>